



最初にお読みください

AT-TQ2403EX リリースノート

この度は、AT-TQ2403EX を買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.4.5

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.4.0** から **3.4.5** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 機器の起動中に電源断が発生すると、まれに設定ファイルが破損してしまい、初期設定で起動する場合がありますが、機能改善により発生しなくなりました。
- 2.2 「イーサネット設定」画面の「高速ローミングサポート」が「有効」に設定されていると、無線クライアントが切断要求を送信せずにローミングしたときにメモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.3 クラスタを構成している本製品で MAC フィルタリングの設定を変更すると、本製品の電波送信が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 「クラスター」 / 「チャンネル自動管理」画面で表示されるクラスターメンバーの使用チャンネルと実際に使用されているチャンネルが一致しませんでした。これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.4.5** には、以下の制限事項があります。

3.1 NAP (Network Access Protection)


NAP (Network Access Protection) 環境で無線クライアントから本製品に接続しているとき、ネットワーク障害や本製品の電源断などによる無線クライアントの切断が起こった場合、障害の復旧後に再度同じログイン名で接続を試みると RADIUS サーバー (Windows Server 2008) の認証に失敗します。Windows Server 2008 にドメイン名を含めた UserID を設定するとこの現象は発生しません。

3.2 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


- 「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスの禁止」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。
- 「イーサネット設定」画面で「VLAN ID」と「管理 VLAN ID」に異なる値を設定して、クラスター機能を有効にすると VWN の設定ができません。クラスター機能をご使用になる場合は、「VLAN ID」と「管理 VLAN ID」を同一の値に設定してください。

3.3 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


「バースト時の速度制限」に「速度制限」で設定した値以下の値を設定できてしまいます。

3.4 VWN

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)


- 「WPA エンタープライズ」と「ダイナミック VLAN」を併用している場合、無線クライアントに VLAN 間のローミングが発生すると無線クライアントとの接続が切断されます。無線クライアントが再接続するために無線クライアントは、アクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。
- (1) VWN のどれかを有効にして「VLAN ID」を設定した後、(2) その VWN の「VLAN ID」を別のものに変えてから、(3) 他の VWN に (1) で設定していた「VLAN ID」を設定しようとすると「VLAN ID」が空欄となり設定できません。その場合は、設定できない VWN の「有効」のチェックをいったん外して「適用」ボタンをクリックし、再度チェックを入れてから設定してください。
- ダイナミック VLAN をご使用になる場合、ダイナミック VLAN と本製品の VWN 機能で使用する VID は異なる値を設定してください。同一の VID を使用すると、本製品が再起動してしまうことがあります。

3.5 クラスター

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「アクセスポイント」](#)


本製品を新たにクラスターに追加する場合は、クラスターを開始していない状態でネットワークに接続してから「アクセスポイント」画面の「クラスターの開始」ボタンをクリックしてください。クラスターが開始された状態で、ネットワークに接続すると設定の共有が行われなくなることがあります。

3.6 セキュリティー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティー」](#)


- 「セキュリティー」画面や、「VWN」画面の各VWNのセキュリティーの「IEEE802.1x」「WPA エンタープライズ」において、RADIUS キー（プライマリー）を空欄に設定するとRADIUS サーバーへの問い合わせに「secret」を使用しますが、セカンダリーのRADIUS キーを空欄にすると「secret」が使用されません。
- 「セキュリティー」画面の「WPA パーソナル」または「WPA エンタープライズ」でWPA バージョンを「WPA2」「WPA」のいずれかまたは両方、暗号スイートを「CCMP（AES）」に設定すると、無線クライアントが本製品に接続してから1時間ほどで、その無線クライアントとの接続が切断されることがあります。無線クライアントが再接続するように、無線クライアントはアクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- 「セキュリティー」の「モード」を「WPA パーソナル」から「スタティック WEP」に変更し「適用」ボタンをクリックしてもその設定内容が動作に反映されません。「適用」ボタンのクリックにより画面が再表示された後、もう一度「適用」ボタンをクリックするか、本製品を再起動することにより設定が動作に反映されます。
- 「セキュリティー」画面の「IEEE802.1x」の「キー更新間隔」の設定が適用されません。適用するには、本製品を再起動してください。
- 「セキュリティー」画面の「モード」を「IEEE802.1x」から「WPA エンタープライズ」に変更した場合は本製品を再起動してください。プルダウンメニューの変更だけではモードが切り替わりません。

3.7 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「WDS」](#)


- Internet Explorer Version 8 の「最新の情報に更新」ボタンで「ステータス」/「WDS」画面を再読み込みすると、5秒ごとの自動更新が行われなくなります。その場合は、Web 設定画面の「ステータス」/「WDS」メニューをクリックしてください。
- WDS で3 拠点間を接続すると、「ステータス」/「WDS」画面の表示が正しくないことがあります。表示上の問題であり、WDS 機能は正常に動作します。

3.8 イベント

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)


DFS によるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

3.9 送信/受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信/受信」](#)


「送信/受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。

3.10 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUcastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップします。


3.11 設定のリストアとバックアップ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- バックアップした設定ファイルをテキストエディターなどで編集した後、本製品にリストアしないでください。


3.12 ファームウェアのアップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)


- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリー不足となり、リポートしてしまうことがあります。

3.13 Web 設定画面


- 「無線」画面の「ステータス」ラジオボタンを「オン」→「オフ」→「オン」のように変えると、初期状態ではグレイアウトしていた「ブロードキャスト／マルチキャスト速度制限」の「速度制限」と「パースト時の速度制限」の入力フィールドが入力可能な状態に変わります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


- 「イベント」画面の「ログのリレー」チェックボックスを有効にした後で無効にすると、入力可能だった「リレーホスト」と「リレーポート」フィールドがグレイアウトします。これらのフィールドに値を入力するときは、「ログのリレー」チェックボックスを有効にした状態で行ってください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

- VWNのセキュリティが「WPA エンタープライズ」の場合、「WPA バージョン」の「WPA」のみが有効となっているときに「WPA」のチェックを外すことによって自動的に「WPA2」が有効になると、「事前認証を有効にする」がグレイアウトして設定できなくなります。その場合は「WPA」「WPA2」の両方を有効にし、「事前認証を有効にする」の設定を変更してから「WPA バージョン」を設定してください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)


- 「VWN」画面の各 VWN のセキュリティ「WPA エンタープライズ」で「事前認証を有効にする」を無効にすることができません。


 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

4 マニュアルの補足

最新リファレンスマニュアルに関する補足事項です。


4.1 IEEE 802.11a で W53 のチャンネルを設定したとき

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線 LAN」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


IEEE 802.11a のチャンネルとして、W53 のチャンネル 52・56・60・64 のいずれかを設定すると、実際に使用されるチャンネルは、W52 と W53 のチャンネル 36・40・44・48・52・56・60・64 の中からランダムに選ばれます。また、W53 のチャンネルが使用されているときに、DFS によりレーダーが検出されると、レーダーのチャンネルを除いたチャンネルから再度ランダムに選択されます。


4.2 クラスタを構成するときのファームウェアバージョン


 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

クラスタは、同一ファームウェアバージョンのアクセスポイントで構成してください。

4.3 チャンネル自動管理とチャンネルの個別設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「チャンネル自動管理」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線 LAN」](#)

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


クラスタ機能をご使用になる場合は、チャンネル自動管理機能を有効にしてください。チャンネル自動管理機能は、クラスタに属すアクセスポイントのチャンネルを電波干渉が減少するように自動的に調整します。この機能が無効になっていると、クラスタに属すすべてのアクセスポイントのチャンネルが同一となり（共有され）、アクセスポイント間で電波干渉が起きます。


クラスタに属すアクセスポイントごとにチャンネルを手動設定したい場合は次のようにしてください。


(1) クラスタに属すアクセスポイントの 1 台で「チャンネル自動管理」画面の「固定」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックします。

(2) アクセスポイントごとに「無線 LAN」または「無線」画面でチャンネルを変更し「適用」ボタンをクリックします。

4.4 WDS 接続中の設定制限

 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「WDS」

 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「無線」

 「リファレンスマニュアル」 / 「クラスター」 / 「隣接アクセスポイント」

WDS 接続中に無線設定、隣接アクセスポイント検出機能を設定した場合、WDS のリンクが最大 5 分切断される場合があります。

5 マニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001582 Rev.B)、ユーザーマニュアル (613-001576 Rev.C) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>